岩手日報平成24年7月14日朝刊

※この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています

岩手日報　2012年（平成24年）7月14日（

3時間37分 白球ドラマ

久慈―花北青雲 22年ぶり引き分け再試合

再戦へ闘志

これぞ意地と意地のぶつかり合い―。盛岡市三ツ割の県営球場で13日行われた第94回全国高校野球選手権岩手大会3回戦。久慈―花北青雲は延長十五回の激闘の末、4―4で互いに譲らず、22年ぶりの引き分け再試合が決まった。選手たちは「苦しい試合だが、やるべきことはできた」「次も気持ちを切らさず戦う」と14日の再戦へ闘志を燃やした。【本記19面】

延長十五回を戦い抜き、試合終了のあいさつをする久慈、花北青雲両校の選手＝盛岡市・県営球場

延長十五回二死一塁―。久慈の城内将志投手（3年）が最後の打者を一邪飛に打ち取りゲームセット。両校選手が整列し、スタンドからも健闘をたたえる拍手が湧き起こった。

花北青雲が2―3で迎えた八回にソロ本塁打2本で逆転し、久慈が九回に同点に追い付いて延長戦へ。久慈は再三好機をつくったが、計21残塁と攻め切れなかった。浜端航大主将（3年）は「チャンスにあと一打が出なかった。悔しいが、まだ明日も試合ができる」と気を取り直した。

花北青雲は救援した大矢明投手（3年）が最後までピンチをしのいだ。沢田靖永監督は「ここまで来たら、もう隠すものはない。またこういうゲームをしたい」と選手の踏ん張りに目を細めた。

試合時間3時間37分。互いに無失策でしのいだ集中力がもたらした「敗者のない好勝負」だった。